



2026.08.17

アストンマーティン ジャパン

ASTON MARTIN VALEN 最強のフロントエンジン・スーパーカー

- アストンマーティン Valen はビスポーク・サービス Q by Aston Martin が手掛ける最新の V12 特別仕様車
- 世界最強のフロントエンジン市販車であり、アストンマーティン 113 年の歴史で最も高出力のフロントエンジンモデル
- アストンマーティンの 5.2 リッター V12 ツインターボエンジンが 850PS/1000Nm を発揮、0-100km/h 加速は 3.1 秒*、最高速度は 345km/h
- モータースポーツ由来の素材や軽量オプションの採用により、アストンマーティンの現行 V12 プラットフォームから最大 110kg もの大幅な軽量化
- ドライバー重視のパワートレインのキャリブレーションとシャシー・チューニングにより卓越した動的性能と一体感を実現
- 専用チューニングを施したチタン製エキゾーストシステムが生み出す強烈な個性を放つサウンド
- ドラマチックな新デザインにはフルカーボンファイバーのボディ、ビスポークのライトユニット、新たなインテリア・アーキテクチャーを採用
- 世界 150 台のみの限定生産

*目標値



2026 年 8 月 14 日、カリフォルニア州モントレー（米国）：

アストンマーティンは、世界最強のフロントエンジン量産車であり、アストンマーティンの 113 年の歴史で最強のフロントエンジン V12 スーパーカーとなる **Valen** を発表します。12 気筒の台数限定特別仕様車の輝かしい系譜に連なる最新モデルとして、**Valen** は挑発的なデザインとパフォーマンスの極限に挑み、最高の視覚的なインパクトと真の比類なきドライビング体験を追求します。

唯一無二の感動と性能を誇るスーパーカーを実現するためデザインとエンジニアリングの限界を押し広げる **Valen** は、フルカーボンのボディに、最高出力 850PS、最大トルクはわずか 2500rpm で 1000Nm に達する、アストンマーティンの 5.2 リッターV12 ツインターボの最も高出力なエンジンを搭載します。ステアリング、サスペンション、ブレーキシステムに的を絞ったハードウェアの調整とソフトウェアの広範なキャリブレーションによって、その圧倒的なパフォーマンスにふさわしい、ドライバーを中心に据えたコンフィギュレーションを実現しています。

Valen には、その強い存在感を放つデザインとキャラクターにふさわしい重みと意味を持った名前が必要でした。「強い」「強力」という意味のラテン語「**valens**」に由来する **Valen** は、アストンマーティンが誇る最強のフロントエンジン V12 として、「V」で始まる長年の伝統を引き継ぐ最適な名前でした。

この最新の特別仕様車は、これまで **Valour**、**Valiant**、**DBR22** などを手掛けてきたアストンマーティンのビスポーク・サービス **Q by Aston Martin** によるもので、新設された **Special Vehicle Operations (SVO)** 部門独自の専門性と技術によって実現されました。

アストンマーティンの CEO、エイドリアン・ホールマークは次のように述べています。「当社のビスポーク・サービスである **Q by Aston Martin** の台数限定特別仕様車の血統を受け継ぐ最新モデルとして、**Valen** には世界最高峰のパフォーマンスにふさわしい、V12 パワートレインが放つパワフルな躍動感と比類ない出力を表現するデザインが必要でした。より強力で、軽量で、圧倒的なサウンドによって、そのドラマチックなデザインは同様にドラマチックなパフォーマンスに支えられています」

エンジニアリング

最強のフロントエンジン・スーパーカーとしての **Valen** の地位を一層強固にするのが、シフト感がよりシャープになった 8 速 ZF トランスミッションです。アストンマーティン **Vantage GT4** のレースプログラム向けに開発された、レース実績のあるシフト戦略を用いて、すべてのドライブモードで歯切れの良い一体感のあるシフトを実現し、0-100km/h 加速をわずか 3.1 秒にまで短縮しています*。最高速度は、電子的に 345km/h に制限されます。

アストンマーティンのピークルパフォーマンス担当取締役であるサイモン・ニュートンは **Valen** のパフォーマンスの特徴を形づくる作業は特に満足のいくものであったと話します。

「プロジェクトが世界最強のフロントエンジン市販車をベースにしているとなれば、その開発が刺激的なものになるということは約束されていました。本格的なスポーツカーでは当然、動的性能が注目されますが、**Valen** は真のスポーツカーが備える明確なダイナミック志向を受け継ぎ、そのエネルギーと走りへのフォーカスをさらに高めることで、**Valen** のポテンシャルを一段と引き出しています。パワートレインとシャシーに関して行った改良はすべて、一つの明確な目的の下で行われています。すなわち、**Valen** の個性と能力を磨き上げ、すべてのスキルレベルで真にスリリングなドライビングを実現することです。運転することを愛するドライバーも大いに楽しんでいただけるでしょう」

V12 パワートレインの能力を最大限引き出すため、**Valen** はパフォーマンス重視のドライブモードを用意しています。**Sport**、**Sport+**、**Track** の各モードは、スーパーカー級のパフォーマンスと動的性能に合った鋭いレスポンスと集中力を高める感覚を実現します。

ドライブモードによって変わる **Valen** のスロットルマップにも、細心の注意が払われています。**Sport** および **Sport+** では、より短いスロットルマップにより、ペダル操作の早い段階からスロットル開度を高めます。**Track** モードでは、限界域での精密なコントロールを優先し、より長く段階的なスロットル特性としています。

Valen の徹底したパフォーマンス志向は、基本の **V12** プラットフォームから最大 **110kg** もの大幅な軽量化が成されたことにも現れています。これは、**Valen** 開発における最重点項目でした。軽量化はカーボンファイバー、アルミニウム、チタン、マグネシウムなど、モータースポーツ由来の各種軽量素材を使用して実現されました。オプションの軽量パックには、アルミ削り出しのサスペンションアームとナックル、チタン製シャシーボルトが含まれ、細部までこだわった綿密な製造によって **16.9kg** の軽量化を図ることができます。

ホイールには新しい軽量マグネシウムホイールが標準装備されます。バネ下重量を最小限に抑えることによってステアリング・レスポンスを向上させ、**Valen** のホイール制御と洗練された乗り心地にさらに磨きをかけます。ホイールに装着されるのは、アストンマーティンがチューニングした、**Valen** のために開発された **Pirelli P Zero R**（フロント **275/35 ZR21** , **325/30 ZR21 rear**）、または **P Zero 2 Winter**（フロント **275/35 R 21**、リア **275/30 R 21**）です。パフォーマンス重視の専用設計タイヤで、日常での快適な使い勝手と、サーキットで存分に発揮されるダイナミックなパフォーマンスを高い次元で両立することを目指して開発されました。

これらのハイパフォーマンスなビスポークタイヤは、優れた横方向および縦方向のグリップ性能を実現するとともに、ドライバーが自信を持って扱えるコントロール性と親しみやすさを両立するよう最適化されています。その結果、極めて幅広い領域で卓越したパフォーマンスを発

揮します。**Valen** は、リアルタイムでタイヤのデータを車両のダイナミック制御システムに伝達できる唯一のハードウェア・ソフトウェア統合ソリューションである、ピレリの **Cyber™ Tyre** 技術**を採用しています。**Bosch Engineering** との共同開発により誕生したこのシステムは、車両のデジタルアーキテクチャへ完全に統合されています。これにより、**ESP**、**ABS**、トラクションコントロールシステムは、リアルタイムのタイヤデータに基づいて制御介入のしきい値を継続的に最適化し、優れたコントロール性能と安全性を実現します

Valen 独特の動的性能の特徴は、**ESP**、ダンパー、ステアリング、キャンバー、ブレーキシステムに関する大幅なハードウェア変更と、目的を重視したソフトウェアのキャリブレーション調整によって生み出されています。長距離ドライブにも求められるしなやかな乗り心地と洗練性を損なうことなく、レスポンス、精度、コントロール性能を高めることができ、オーナーを長距離走行の旅へと誘います。

フロントとリアの横剛性を重点的に高めることで、精度の高いレスポンスと確かな方向転換を実現しています。ドライバーの操作に対してロールとピッチが減少したことで、基本の **V12** プラットフォームの俊敏性を向上させながら、ドライビングを最大限に楽しめる、遊び心のあるハンドリングバランスを維持しています。

重点的に開発が行われたステアリングは、シャシーとソフトウェアのチューニングを通してフィール、つながり、システム剛性を実現しています。ステアリングはレスポンス重視のチューニングが行われているため、**Valen** が実際より全長が短く軽量であるかのように感じます。

Valen はソリッドマウントのリアサブフレームと、モデル独自のスプリング、ヘルパースプリング、ビルシュタイン **DTX** セミアクティブダンパーも採用しています。ステアリングのキャリブレーションは軽快感を最大限に高め、フロントエンドのグリップ性能を限界まで引き出します。一方で、その俊敏な旋回性に見合う高いトラクションを確保し、フロントからリアまで一体感のある確かな挙動を実現するため、細心の注意が払われています。

Valen のブレーキブースターは、車両とドライバーとのあらゆる接点で一貫性のあるフィールとレスポンスを保証するため、確かなペダルフィールを維持し優れた精度と安定した操作感を実現しています。高速でも低速でも、フロント **410mm**、リア **360mm** のカーボンセラミックブレーキを精密にコントロールできます。

新しい軽量チタン製エキゾーストシステムは、**Valen** のパフォーマンスにふさわしいサウンドを生み出します。**Valen** 専用に開発されたエキゾーストシステムは、認証基準適合のための新しいマイクロマフラーを備え、軽量化を図りながら、**V12** エンジン搭載車ならではの魅力を十分に味わえるサウンドを強化します。これは、感動を高め、他と間違えようのない個性的な外観と動き、サウンドを持った車を創造するための戦略の重要な一部です。**Valen** のクアッドエ

キゾーストシステムは、ミッドシップのハイパーカーのデザイン言語をフロントミッドのスーパーカーに応用し、4本のテールパイプが上下2本ずつに分かれています。テールパイプフィニッシャーは、軽量化と素材の扱いに重点を置き、3Dプリントで形成されたチタン製です。上部のテールパイプエンドは常にかいている一方で下部のテールパイプエンドにはバルブを備え、ドライブモードによって開閉することで、感情に訴える究極のサウンドを生み出します。

Valenの咆哮は、よりパフォーマンス重視らしいサウンドとなるように入念にチューニングされ、低音を抑えながら高音を増幅しています。システムの寸法を最適化することで、劇的なクレッシェンドへと進むサウンドが強化される一方、上部のテールパイプエンドはオルガンのパイプのように調整されて高回転域で共鳴を起こし、個性と存在感を大きく高めます。

デザイン

Valenは、アストンマーティンのアイコニックなフロントエンジンの様式を新たに解釈しています。そのデザインの創造的な原動力について、アストンマーティンのエグゼクティブ・バイスプレジデント兼チーフ・クリエイティブ・オフィサーであるマレク・ライヒマンは次のように述べています。

「Valenは新たなデザイン言語とサーフェスデザインを通じて、これまで以上に大胆なエモーションを模索し提示する機会を与えてくれました。このため、Valenはアグレッシブな動的性能を反映するシャープで彫刻的なライン、フロントエンジン・リアドライブのレイアウトを強調する攻撃的なたたずまい、よりスポーティなコックピットを生み出すビスポークのインテリアデザインなどの面で、これまでのモデルとは大きく異なります。高い性能とスポーツ志向を強烈に感じさせる挑発的なフロントエンジン・スーパーカーでありながら、アストンマーティンのフラッグシップに期待されるワンランク上のラグジュアリー、細心のディテール、際立ったデザイン性を備えています」

Valenのドラマチックなフロントで特徴的なのは、前方へ低く落ち込むボンネットのラインのシャープな先端の下に奥深く配置されたスリムなヘッドランプです。より角ばったラジエーター開口部、大胆で幾何学的なメッシュグリル、鋭角のフロントスプリッターとともに、独特の個性を生み出しています。

ボンネット上面には、後端部に複数の孔を設けた1つのエアベントを備えています。車体の両側では従来のサイドストレーキはよりシャープかつ長くなり、ホイールアーチから空気を取り込んで丸みを帯びた側面に導く、大きなベントに一体化されています。サイドストレーキはドアのほぼ全長にわたって伸び、その後方では張り出したリアハンチがさらに幅を広げてリアホイールを覆います。

両サイドの下部は、段差のあるサイドシルが存在感を放ち、これによってくびれるタイトなウエストラインが、フロントとリアの力強いフェンダー部分を強調しています。サイドシルの後縁に配置された、シャープなのこぎり歯状のボルテックスジェネレーターが車体の下から高速気流を引き出し、揚力を軽減してダウンフォースを発生させます。新しいクォーターウィンドウは **Valen** の横顔に表情を加え、個性ある車を創造する決意を示しています。

Valen のリアも、同様に大胆なデザインになっています。リアウィンドウとトランクのふたは、テールゲートに置き換えられています。上部にウイングを備えるテールゲートを開けると、大容量（170L）のトランクがあり、その空間を最大限活用するためのビスポークのラゲッジセットもオプションで用意されています。ラゲッジの出し入れ時に広げることのできる、柔らかいペイント保護のための専用カバーもあります。

大きなテールは上に反り上がってガーニーフラップのような役割を果たし、ダウンフォースを発生させながらドラッグを最小限に抑えるため、モータースポーツで使用されるようなウイングの必要がありません。その下には、全幅いっぱいに専用設計のライトバーが伸び、鮮やかなライトバーの下にはエキゾースト周辺の高温の空気を排出する穴の開いたパネルがあります。エキゾーストには、上向きのリアディフューザーの上に装着されたハイマウントの 2 本のテールパイプがあり、**V12** スーパーカーにふさわしいサウンドを奏でます。

ショーカーのボディカラーには、**Q Ultra** カテゴリーのサテン・アンドロメダ・レッドで塗装されています。サテンのトップコートはデザインの存在感あるラインを際立たせ、アンドロメダ・レッドの色合いの変化は強い印象を残します。アンドロメダ・レッドは深みのある赤、銅色、豊かな黄金のハイライトが混じり合い、鮮烈なブルーのニュアンスへとダイナミックに変化します。クロマフレア顔料を用いて混ぜたウルトラ・ラグジュアリーな顔料によって、タイムレスで革新的なカラーが生み出されます。うす暗い環境でも見ることができる色の圧倒的な変化の幅が、色の贅沢な動きとともに新たな表情をもたらします。

Valen はコーチビルトのカーボンファイバー製のボディを有し、オプションで魅力あふれるエクスポーズド・カーボンファイバーを選択することもできます。素材に関するクラフトマンシップを示すこの美しいオプションは細心のディテールを備え、カーボンの織り目のヘリンボーンが車体の中央に伸びています。また、エクスポーズド・カーボンファイバーには色指定が複数あり、サテン仕上げとグロス仕上げのどちらも選べます。さらに、**Q by Aston Martin** チームとともに、ビスポークの色を選び、開発することもできます。

Valen のインテリアのテーマは、車両全体にわたる大幅な軽量化を反映した「視覚的な軽さ」です。その中心にあるのがスリムなセンターコンソールで、先進的な 3D プリント技術によって製作され、**Valhalla** で導入されたパフォーマンス重視のスイッチパックを装備しています。

コンソールがドライバーに向けて傾いているため、よりドライビングに集中できるコックピット環境が生まれ、ドライバーとマシンとの一体感を高めています。

Valen のキャビンでは、ボディサポートと長距離における快適性の両方を提供する新開発の **Sports Plus** シート、またはより集中したドライビングに適した軽量カーボンファイバー製パフォーマンスシートが選べます。これらのオプションによって、コックピットを用途やニーズに合わせて仕立てることができます。

インテリアのトリムには階層的な設定が導入され、個々の選択肢の幅を狭めることなく選択プロセスがシンプルになりました。最初にセミアニリン・レザーとアルカンタラ、またはセミアニリン・レザーのみのいずれかを選び、その後スプリットを 5 種の中から選びます

(Monotone、Duotone、Light Duotone、Tritone、Driver Focused)。Valen 専用に開発された新しいキルティングを例にとると、キルトが施される範囲はトリムレベルが上がるごとに段階的に広がり、最上位仕様ではドア、シート、ヘッドライニングにまで及びます。ドライバーシートを際立たせる **Driver Focused** オプションとコントラストカラーのディテールを加えるアクセントパックを追加すれば、ほぼ無限の選択肢の組み合わせが可能になります。

このほかにも、**Valkyrie** や **DBS Zagato** などの歴代限定特別仕様車と同様のアプローチで、キャビン内の随所で 3D プリント製の装備が採用されています。パーフォレーションが施されたこれらの箇所はエクステリアの冷却ベントを思わせ、視覚的なアクセントを加えながら、軽やかでシンプルな印象を強めます。センターコンソールも、**Valhalla** から装備を受け継ぎながら新しくなっています。中央のタッチスクリーンは、インテリアのそぎ落とされたデザインの優美な幾何学的形状に溶け込むように、傾きを大きくしています。

エアベントなどの機能装備は視覚的なノイズを減らす変更が施されています。アルマイトカラーの新色も開発され、**Q by Aston Martin** が提供する装飾とパーソナライゼーションの幅を広げています。

アストンマーティンの最強フロントエンジン **V12** スーパーカーは限定 150 台、デリバリーは 2027 年第 2 四半期から開始される予定です。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-rmXgYE9yhCnyiyJF>

<https://www.youtube.com/watch?v=Ngsk-76s3TQ>

** 仕向地により仕様が異なります

Notes to Editors:

Valen は、21 世紀を代表する傑出したアストンマーティンの系譜に連なります。アストンマーティン初のフロントエンジン V12 スーパーカーは、2009 年発売の卓越した One-77 でした。アストンマーティンの伝説的な量産 6.0 リッターV12 エンジンをコスワースによるチューニングで進化させた 7.3 リッター、最高出力 760PS のエンジンを搭載し、当時の世界最強の自然吸気スーパーカーでした。

2015 年、アストンマーティンは刺激的な Vulcan を発売しました。アストンマーティン初のサーキット走行専用の限定モデルであった Vulcan は、F1 スタイルのカーボンファイバー製タブ、専用の最高出力 831PS の 7.0 リッターV12 エンジン、高ダウンフォースのエアロダイナミクスを採用し、アストンマーティンの顧客は本格的なレーシングカーがもたらす興奮を味わうことができました。

これに続き、2020 年には Q by Aston Martin が特注を受けて手掛けた唯一無二のワンオフ、Victor が登場します。アストンマーティンの歴史を彩る 1970 年代の V8 Vantage のデザインにインスピレーションを得た Victor は、2023 年の Valour、さらに翌年 2024 年のサーキット志向の Valiant に直接影響を与えました。極めて強力な 5.2 リッターV12 ツインターボエンジンに 6 速マニュアル・トランスミッションを組み合わせたこの 2 つの特別モデルは、アナログなドライビングのスリルをこの上なく賛美するものでした。

2022 年にはアストンマーティンの V12 の血統を記念する V12 Vantage が登場し、それまで生産された中で最も研ぎ澄まされ、動的性能の高い Vantage のシャシーに、700PS の 5.2 リッターV12 ツインターボエンジンが搭載されました。わずか 333 台の限定生産で発売前に完売となった V12 Vantage は、最高速度 322km/h に上る性能に加え、印象的なワイドボディのデザインで、204kg のダウンフォースを発生させる先進的なエアロダイナミクスを備え、軽量素材を広範に使用していました。V12 エンジンを搭載する最後の Vantage として収集価値が高く、妥協のないパフォーマンス、ドライバーとの一体感、際立つ個性を特徴とする系譜の集大成にふさわしいモデルです。

アストンマーティン・ラゴンダについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって1913年に設立されたアストンマー

ティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、Vanquish、DBX707に加え、同社初のハイパーカーであるValkyrieなど、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green.サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは「ブレンドドライブトレインアップアプローチ」による内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つという明確なプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴндаは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。

ラゴндаは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

astonmartin-pr@pjbc.co.jp